

# 浄泉寺報

第31号  
2022年  
報恩講



今年の報恩講に向けた「おみがき」の様子

## 親鸞聖人の救い

― 報恩講に想う ―

浄泉寺住職 望月廣三

人間の魅力は苦境に立つことが  
できる「事」にあるのでないか、  
と教えられたのが親鸞聖人です。  
人間の弱さは何といっても、苦  
しい現実から逃避する点にあり

ますね。この逃避の原因は弱さにあると考えている人が多いでしょうが、けっしてそうではないのです。問題は苦境を捉える「視点」にあるのです。この視点は、苦境を「再生」（仏教で「往生」という）の動機付けにすること、つまり「こんな辛い、苦しい目に遭ったからこそ、いまの私があるのだ」と言える「私」の獲得です。

仏さまとは何か？前号も前々号も問うてきましたが、私たちに  
とって仏さまとは、再生の「動機」  
になるものでなければなりません。  
病気になったり将来を悲感したり  
している人は、これまで自分を  
支えてきた、あの蝟たこの木の「支柱根」  
を思ってください。まっすぐ土中  
に根をのばすあの「根」、要する  
に苦しみや悲しみこそが苦境に  
負けない「根」であったことを、  
思い起してください。

### 浄泉寺からのお知らせ

#### ● 春のお彼岸 ●

お参りの日程は、三月上旬にお八ガキにてお送りします。

#### ● 同朋会（月例法座） ●

浄泉寺では、毎月お勤めと任職の法話を中心にした同朋会を開催しています。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお越しください。日程等の問合せは浄泉寺まで。

#### ・ 若坊守のひとりごと ・

やなせたかしさんが書いたアンパンマンの歌の一節に「なんのために生まれて なにをして生きるのか こたえられないなんて そんなのはいやだー」という歌詞があります。私はなぜ生まれたのか、そして「生きる」ということの本当の意味は何なのか、確かな答えがないまま（死んでいく）なんていやだー！というこの歌は、私達人間の根本的な求道心を

端的に言い表していると思います。そして、これは人として生まれてきたからこそ湧き起こる問題です。

しかし、これはなかなか答えがない問題でもあります。昔、幼かった娘に「人は死ぬとどうなるの」と聞かれて、どう娘に答えるか困ったことがありましたが、答えがない問題に迷い悩むことの大切さを今は感じています。迷いがあるから、そこに書いたアンパンマンの歌詞にあるような、本当に生きることの意味を求めていくのだと思うからです。

この歌は「今を生きること」で熱いところ燃える だから君はいくんだ ほほえんで」と続きます。生きるということは悩み迷うことですが、その迷いを大切にするとすることが、その問題の本質を考える手立てになるのではないのでしょうか。

（浄泉寺若坊守・釋尼彌名）

お内仏(仏壇)に座る ②9 ～ 宗祖 親鸞聖人(2) ～

報恩講とは、親鸞聖人の御命日(11月28日)をご縁に勤まる仏事です。本山の京都・東本願寺では、11月21日から28日までの7日間勤まり、それぞれのお寺でもその前後に勤められます。

一方、親鸞聖人の誕生日は4月1日とされています。そして2023年は、1173年にお生まれになった親鸞聖人の850回目の誕生日にあたります。その節目に「親鸞聖人御誕生850年立教開宗800年慶讃法要」が3月から本山で勤まります。今回は、親鸞聖人の御誕生についてご紹介します。

親鸞聖人がお生まれになったのは平安末期。京都・日野の里(伏見区あたり)に日野有範の長男として誕生しました。当時は、保元の乱(1156年)や平治の乱(1160年)などの戦乱の後の混乱期。また、台風や大地震、洪水などの自然災害や疫病がつぎつぎと起こった時代でもありました。様々な出来事が起こることが世の常ではありますが、現在の状況にも重なるものがあるかもしれません。

そして、親鸞聖人5歳のときには、京都で大火事が起こり、都の三分の一が消失、さらに大飢饉が発生し、4万人を超える死者が出たといわれています。そんな中で、想像ではありますが、人の命のほかなさや世の中の無常といったことをまざまざと見せつけられ、そのことが、親鸞聖人の多感な幼少期に少なからず影響を与えたのではないかと思います。

親鸞聖人が9歳で出家得度された時には「明日ありと思う心の仇桜夜半に嵐の吹かぬものかは」(〔意識〕明日も変わらず咲いているだろうと思って眺める綺麗な桜の花も、夜中に嵐が吹けば儚く散ってしまうのと同じように、私の命もいつ終わるともわかりません。だからこそ、今、仏の道を歩みたいと思うのです)という歌を残されたと伝えられています。戦乱期のことなので、僧侶にならざるを得なかったという一族の理由もあったかもしれませんが、この歌からは、無常の世の中であって、儚いとしか言いよう

のない人生を歩む自分自身は一体何者なのか、そのことをハッキリさせたいと、仏さまの教えに救いを求めていかれた幼き日の親鸞聖人の心が映されているように感じます。

(浄泉寺若院・釋垂世)

令和5年(2023年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和4年(2022年)亡
三回忌	令和3年(2021年)亡
七回忌	平成29年(2017年)亡
十三回忌	平成23年(2011年)亡
十七回忌	平成19年(2007年)亡
二十五回忌	平成11年(1999年)亡
三十三回忌	平成3年(1991年)亡
五十回忌	昭和49年(1974年)亡

慶讃法要にぜひお参りください!

【第1期法要】2023年3月25日(土)～4月8日(土)

【第2期法要】2023年4月15日(土)～4月29日(土)

※3/26(日)、4/2(日)、4/16(日)、4/23(日)、4/24(月)には、若院も企画に携わっている「井波彫刻師による東本願寺の彫刻ガイドツアー」も実施!



詳しくは、右QRコードからホームページをご覧ください。



<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

電話 0799-22-4798

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>